

地域 担い手 サポ・センだより

J Aグループ山形

経営面積約450畝。組合員数102人。2016年1月に発足した酒田市の農事組合法人・ファーム北平田は、全国でも最大級の規模を誇る。

水稲約357畝と大豆62畝、長ネギやエダマメなどに加え、今年から先進技術を取り入れた大規模なハウストマト栽培が始まった。代表理事の樋口隼二さんは「経営安定のためには、米だけに頼らない園芸振興が不可欠。雇用を生み、担い手を育て、地域を守るためにもぜひ成功させたい」と意気込む。

### 国内最大級のファーム北平田

13年に閉校した北平田小学校のグラウンド跡地に建設した4棟の園芸ハウスは、調光フィルムや各種センサーで温度や湿度などが自動制御され、天候などに左右されずに栽培環境が常に一定に保たれている。そこでJA全農オリジナル品種のミニトマト「アンジェレ」と、中玉の高糖度フルーツトマト「フルティカ」を栽培している。

「ういずoneシステム」を導入。トロ箱と呼ばれる発泡スチロール製の槽で養液栽培する。設置や移動が容易で、低コストが魅力。収穫は6月から始まり、11月末まで続く。「フルティカ」はアイメック農法を導入。土を使わず、余分な水や雑菌を通さない極小の穴が無数に開いた特殊なアイメックフィルムを用い、養液栽培する。

て、地域農業に希望をもたらし、大きな夢だ。北平田地区の農地は約600畝。樋口さんは「いつも固い決意を話した。でも受け入れられる体制を今からしっかり整えておくことが重要」と、地域を守る

# 園芸振興で夢と希望



ミニトマト「アンジェレ」の選別作業。17年度の販売は1000万円が目標だ